

[単元を貫く問い] 〇〇はどのような人物なのだろう。

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)

[第1学年及び第2学年]

◆人物の様子を思い浮かべる ・おとうとねずみ チロ（第1学年）

◆人物の様子を想像して読む ・ニャーゴ（第2学年）

[第3学年]

◆中心人物の行動や気持ちをとらえる ・サーカスのライオン

本単元の目標

学びに向かう力、人間性等

・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

単元終了時のめざす児童の姿

・人物の行動や気持ちを表している叙述に着目して物語を読み、場面の移り変わりの中でその人物の性格を想像することができる。

・文中の人物の気持ちや性格を表す語句を使って、人物の性格について想像したことを豊かに表現することができる。

知識及び技能

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(1) オ

思考力・判断力・表現力等

・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。C (1) イ

◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。C (1) エ

この単元からつながっている領域の付けたい力 (◆) と内容 (・)

[第4学年]

◆人物の気持ちの変化を想像する ・ごんぎつね（第4学年）

[第5学年及び第6学年]

◆人物像を捉える ・大造じいさんとガン（第5学年）

◆表現の効果を捉える ・模型のまち（第6学年）

[中学校第1学年]

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈する力。

[中学校第2学年]

◆目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈する力。

[中学校第3学年]

◆文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力。

教材観

本教材は、臆病な豆太が大好きなじさまのために、真っ暗な山道を勇気をふりしぼって医者呼びに行ったことで、灯がともったモチモチの木を見ることができたという物語である。主人公の豆太は、子どもらしく児童にとって寄り添いやすい人物として描かれている。したがって、児童は自然と人物に着目して読み進めていくことができる作品となっている。また、本教材は、場面ごとの副題がついており、場面の移り変わりが明確である。場面の移り変わりの中で、登場人物の気持ちの変化と結び付けながら読むことができる教材であるといえる。

言語活動

登場人物の性格について想像し、考えを伝え合おう

見通し・構造と内容の把握

【3時間】

●これまでに学習してきた物語文に出てくる登場人物の性格について振り返るとともに、単元ゴールを確認し、どのように学習を進めていくのか見通しをもつ。また、初発の感想をもつ。

・学習計画を立てる。

●本文の内容を大体読むとともに、叙述を基に登場人物の行動や気持ちを想像する。

(2時間)【知①】【思①】

・登場人物や、時・場所について押さえる。

・登場人物の気持ちが分かる叙述に線を引き、その時の気持ちを全文シートにまとめる。

精査・解釈

【5時間】

●場面の移り変わりを捉え、叙述を基に、登場人物の性格を想像し、まとめる。

【知①・思②】

・登場人物の気持ちが分かる叙述に線を引いた全文シートをもとに、ノートで付箋等を使ったり、タブレットでシンキングツールを使ったりしながら想像した性格をまとめる。

●「モチモチの木」の豆太の性格について読み進めた後、関連図書の登場人物の性格を想像し、まとめる。

●児童が伝えたい、話を聞いてみたいと思う友達と登場人物の性格について想像したことを紹介し合う。 【主①】

※毎時間、児童同士が本時までに進んだ読みを伝え合い、自分が立てためあてに応じた振り返りを行うようにする。

※タブレットやノート、一人読みをする時間や友達と協働して学ぶ時間を児童が選択しながら読みを深めていく。

考えの形成・共有

【1時間】

●友達の読みと自分の読みを比較したり、物語文を読むときにどのような読み方をするか性格を想像することができたのかを振り返ったりし、感想や考えを交流する。

働かせている児童の姿

見方・考え方を働かせている児童の姿

・既習の内容を想起しながら学習に見通しを持っている。

・物語の中で出合う語句に着目し、文脈の中で語句の使い方を理解し、語彙を豊かにしている。

・会話文や地の文を根拠にしながら、人物の気持ちや性格について想像している。

・登場人物の性格について想像したことを比較し、物語の読みを深めている。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1) オ	① 「読むこと」において登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。C (1) イ	① 進んで、登場人物の気持ちの変化や性格について具体的に想像し、学習課題に沿って紹介しようとしている。
② 「読むこと」において、登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C (1) エ		

児童の実態と指導観

本学級の児童は、「ワニのおじいさんのたから物」や「サーカスのライオン」の学習を通して、叙述から登場人物の性格や気持ちを想像する学習をしてきた。特に、「サーカスのライオン」の学習では、児童が学習形態を選択しながら課題に取り組んでいく学習に取り組んできた。その中で、登場人物の性格が分かる行動を表す文章や会話文に着目すれば、性格を想像することができることを学んでいる。しかし、どの叙述に着目したのかという根拠を明確にして人物の性格を想像することに課題が見られた。本単元の学習では、「どの文・言葉・場面からそう思った?」「なぜそう思った?」ということを常に問い返ししながら、場面の移り変わりを通して、登場人物に関する複数の文章を基に、物語全体を通した登場人物の性格を想像するような授業展開をしていきたい。

また、令和6年度標準学力調査「読むこと」においては、平均65.8%という結果だった。その中でも「場面の様子や登場人物の気持ちなど、内容の大体を捉える力」は63.2%であった。登場人物の性格を、叙述を基に捉え友達同士で物語の読みを比べ合い、読みの面白さを感じられるようにしていきたい。

他教科等との関連

・読書活動

【本時における言葉による見方・考え方】 会話文や地の文を根拠にしながら、人物の性格について想像している。



おくびょうで弱虫なところと、じさまのためならやさしさと勇気をもって行動できるところをもっている人物。

夜になると弱虫な豆太が、じさまへの思いやりの気持ちから、いざという時には勇気を出すことができる人物。

夜に一人で外に出ることが、ぶるぶるふるえるぐらいおくびょうだけど、じさまが死にそうな時には、じさまのためにはだしで走って医者様をよびに行くほど、勇気を出せる人物。

登場人物の性格を想像する過程では、各場面の豆太の心情を読み、場面ごとに心情を比較したり、音読を繰り返したり、友達と話し合ったり聞きに行ったりする等、自分に必要な学びを児童自らが考え、課題意識をもって取り組んでいくこととし、主体的・対話的な学びを実現していく。また、日々のマイめあてをスプレッドシートで共有し、友達がどんな学びを進めているのか児童同士が見て分かるようにしておくことで、必要感のある対話が生まれるようにする。

児童主体の学びとなっていくが、ただ登場人物の性格を想像する学習を児童に任せて進めていくのではなく、「なぜそう思った?」「どこからそうと分かる?」など、その叙述を取り上げた理由を問う発問や問い返しを常に払い、児童に働かせる見方・考え方を自覚させていきたい。

まとめ・振り返り

複数の叙述を基に登場人物の性格を想像して考えている姿

〔指導上の留意点〕

- ・振り返りの視点を示し、友達と伝え合ったことを想起しながら次時へつながる振り返りとなるようにする。

(評価方法：タブレット・ノート・発言)